

令和2年度 第1回 神奈川県保健医療計画推進会議 書面協議 協議結果

議題事項		審議結果		意見の概要	県の考え方
		異議なし	異議あり		
(1)	会長の選出について	20	0	—	—
(2)ア	令和2年度保健医療計画推進会議及び地域医療構想調整会議等の当面の運営方針について	19	1	<ul style="list-style-type: none"> ・主要な議題に「該当地域での病床整備」が挙げられているが、横浜市では今度の地域医療構想調整会議で、来年の病床配分事前協議の方向性が確認されようとしている。 ・従来は回復期と慢性期の病床募集がされてきたところ、今回「新たな感染症の即応病床（仮称）として：重症・中等症患者受け入れの役割を担う」病床を機能別に関わらず募集する方向性が示された。 ・平時には準備病床として一般医療を行えることとなると想定されるため、高度急性期ないしは急性期病床の類型となり、地域によっては高度急性期・急性期病床が増加するという、当初の地域医療構想に矛盾しかねない問題もはらむように思われる。 ・なぜに既存病床の活用ではだめなのかも検討された様子が無く、神奈川モデルによるコロナ病床確保の総括もなされていないなかでの計画となってしまうことに違和感がある。 ・県として保健医療計画との整合性を考えた場合、「新型コロナウイルス感染症への対応を踏まえた見直しについては、適切な時期に成果や課題を検証して」と先送りすることで良いのだろうか、と疑問に思う。 	<p>横浜市が検討されている「新たな感染症の即応病床（仮称）」については、その詳細を含め、今後、市において地域医療構想調整会議等でより丁寧な説明がなされるべきものと認識しております。</p> <p>また、過剰な病床機能への転換や配分については、地域において真にやむを得ないものと認められない場合以外は、認められないというのが地域医療構想の基本的な考え方であり、今回の病床配分が地域にとって真にやむを得ないものかを慎重に検討する必要があると認識しております。</p> <p>なお、新型コロナウイルス感染症への対応を踏まえた計画の見直しについては、適切な時期に成果や課題を検証し、委員の御意見も参考にしながら計画に盛り込むべき内容を精査する必要があると考えております。</p>
(2)イ	第7次神奈川県保健医療計画の中間見直しについて	20	0	<ul style="list-style-type: none"> ・今回のコロナ禍により保健医療計画だけでなく、国の進める三位一体改革（地域医療構想、働き方改革、医師確保計画）について、有事における医療提供体制の視点を加味した再検討が必要。 ・基準病床数の見直しについては、横浜地域においては地域の実情に基づいた協議を要するため、毎年度検討を行っているところであり、こうした地域の意見を尊重すること。 	<p>国の三位一体改革の動向を注視しつつ、県としても有事における医療提供体制のあり方を検討していく必要があると認識しております。</p> <p>いただいたご意見を、地域医療構想調整会議等でのご意見を踏まえ丁寧に検討してまいります。</p>
(2)ウ	地域医療介護総合確保基金（医療分）について	20	0	<ul style="list-style-type: none"> ・基金活用にあたっては、自治体や医療関係団体等、地域からの提案を積極的に採用すること。 ・今までも人口割でいえば不公平だった神奈川県はクルーズ船への対応も含め、全国有数のコロナ対応をしてきた為、経営面で大変深刻な状況である。 ・まさに地域医療と介護を確保するための基金として使えるよう、さらなる尽力を要望する。 	<p>いただいたご意見を参考に、基金の効果的な活用に向けて積極的に検討してまいります。</p> <p>いただいたご意見を参考に、基金の柔軟な活用等について国に対して要望してまいります。</p>